

営農ウィークリーNEWS

平成29年産米の良質米栽培に向けて

高温障害対策を行いましょう！！

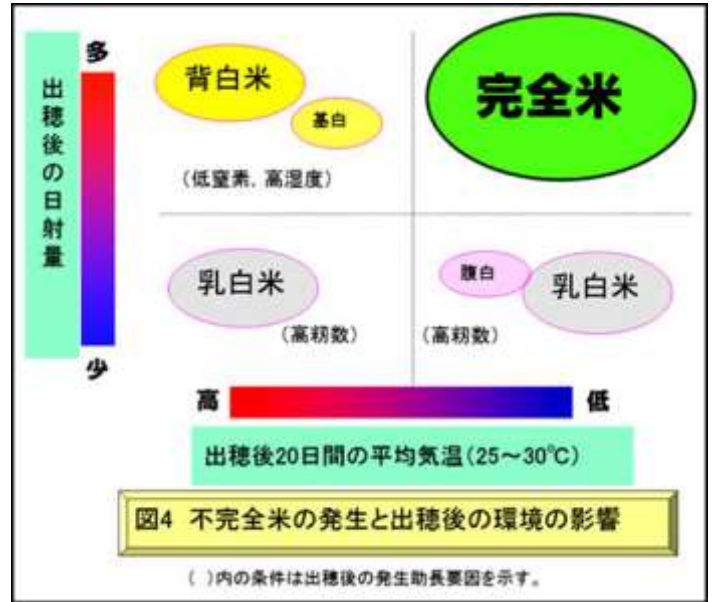
「ヒノヒカリ」では出穂後20日間の平均気温が27℃以上で背白米、基白米が発生し、28℃以上で多発します。背白米、基白米、乳白米は、基本的に光合成が十分に行えないことに起因します。根張り充実のための対策、籾数が過剰にならない対策を行うことが必要です。



基白米



背白米



「農業温暖化ネット」より

高温が発生した時に、発育している部分が障害を受けると、その部位の細胞にでんぷんが集積が悪くなり乳白化します。

～けい酸加里で高温障害対策～



けい酸加里で「ケイ酸」と「カリ」を補給！！
 水稻は夜温が高くてても低くても、生育に重要な養分の「ケイ酸」と「カリ」が吸収阻害を受けるため、積極的な補給が大切です。

～散布の目安時期～

○北部地域早生品種 5/15植→8/2頃出穂
 40日前・6月23日

○南部地域晩生品種 6/5植 →8/24頃出穂
 40日前・7月15日

～散布時期と施用量～

出穂45～35日前 30kg～40kg/10a

京都市立向島小学校



二番茶摘み&ホットプレート手もみ製茶体験学習を実施

—TAC information (●●) TAC



京都市立向島小学校で、4年生児童を対象に、校内で栽培している茶園において2番茶摘み体験と摘んだ茶葉をホットプレートで製茶する体験学習の授業が行われました。授業は、地元の特産である「お茶」を年間を通じて学ぶことが計画されています。

手もみ加工された茶葉は、今後の授業で試飲される予定です。

JA京都中央 平成29年6月20日 No.349 作成者 島 裕加里